

フットパスルートの紹介

四十三山ルート

パードウォッチングや
人肌湯、森林浴に最適
開放期間:5月上旬~11月下旬

四十三山ルートは、1910年(明治43年)の噴火の跡をたどるルートです。

1910年(明治43年)7月に小さな前兆の地震が始まり、地震の回数の増加に伴って、地割れも発生しました。7月25日、金比羅山で水蒸気爆発によって火口ができ、次々と45個の火口や断層群が北山麓の東西2.7kmの地帯にできました。この噴火は予測されていたので、15,000人が事前に避難できました。噴火そのものによる犠牲者はありませんでした。11月10日までに100m以上隆起して潜在ドームである四十三山(明治新山)となりました。洞爺湖温泉は、この時に地下から上昇してきたマグマを熱源としています。

フットパスルート上の観察ポイント

1 観察ポイント:1910年噴火による火口群

コース:A, B, C



1910年の噴火で45個の火口が形成されました。一世紀へ経た現在では、森林に覆われています。

2 観察ポイント:噴気孔

コース:A, B, C



1910年の噴火以降、水蒸気が噴出し続ける噴気孔です。しばしば常時50度程度の水蒸気が噴出しています。

3 観察ポイント:四十三山山頂展望台

コース:A, B, C



早春には約11万年前のカルデラ噴火で形成された洞爺湖湖および約5万年前の溶岩ドーム群(中島)が一望できます。



[マップの基図]

このマップの基図には、赤色立体地図を使用しています。赤色立体地図は、最新の航空レーザー測量によって地表面の標高を計測し、樹木等の高さを除去した地盤高データを用いて地形を表現した立体地図です。傾斜急な場所ほど赤く、尾根ほど白く表現されています。



出発地点へのアクセス

四十三山ルートと金比羅山ルートの出発地点へ行くには、右図を参考にしてください。



凡 例

- : 観察ポイント
- : 青いピン間の距離(m)と歩行時間(分)
- : 2000年噴火後に整備されたルート
- : 一部急傾斜や足場の悪い場所があるので、ご注意ください。(天候などの状況によっては、利用できなくなることがあります)
- P: 駐車場
- : フットバスの出発地点、到着地点
- 🚲: 駐輪場
- 🚻: 駐輪場
- WC: トイレ
- 🚪: ゲート
- 🔥: 火口(左から1910年噴火、1977年噴火、2000年噴火)

金比羅山ルート

火口と噴火の跡をたどる
開放期間:4月20日~11月10日
開放時間:7時~18時

金比羅山ルートは、2000年(平成12年)噴火により形成された火口や断層、災害遺構の様子をたどるルートです。2000年(平成12年)3月、前兆地震に引き続き、西山麓でマグマ水蒸気爆発が始まりました。激しい隆起変動が続き、火口から熱泥流が流れ出ました。熱泥流は洞爺湖湖温泉の小学校や住宅を襲い、2つの橋を流しました。小規模な噴火は一年半ほど続きました。

フットパスルート上の観察ポイント

4 観察ポイント:やすらぎの家

コース:A



熱泥流が流れ込み、破壊された町営浴場やすらぎの家

5 観察ポイント:木の実橋

コース:A



熱泥流は、国道230号の木の実橋を約100メートルも押し流しました。

6 観察ポイント:桜ヶ丘団地

コース:A



2000年噴火であふれ出た熱泥流により桜ヶ丘団地の1階部分は埋まり、2階部分に木の実橋が直撃し、写真のような痕跡が残っています。

7 観察ポイント:K-A火口(有くん)

コース:B



2000年噴火時、金比羅山周辺では過去に繰り返して活動した断層に沿って、次々と火口が移動しました。主な火口は有珠の文字から「有くん」、「珠ちゃん」と愛称が付けられました。

8 観察ポイント:K-B火口(珠ちゃん)

コース:B

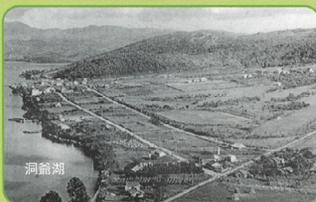


2000年噴火時、金比羅山周辺では過去に繰り返して活動した断層に沿って、次々と火口が移動しました。主な火口は有珠の文字から「有くん」、「珠ちゃん」と愛称が付けられました。



主な有珠山の噴火など

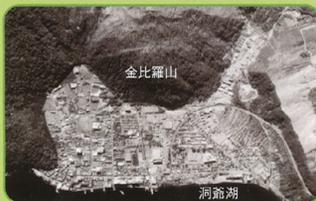
1931年



今の洞爺湖温泉がある有珠山北側の扇状地は、昭和の初期から発展してきたことが分かります。昭和15年頃には、この地域はゴルフ場、仰 町営グラウンドなどに利用されていました。当時は、住宅が建設され、道路が伸びて、鉄道も通っていました。

レストラン望羊蹄 小西悦子さんより借用・複製

1977年(噴火前)



1977～1978年噴火前の空中写真をみると、扇状地上に洞爺湖温泉街が広がっている様子が分かり、川が見あたりません。

国土地理院空中写真1977年

1978年



1977年～1978年の噴火自体では、犠牲者はありませんでしたが、1978年10月24日の雨で発生した泥流で三人の方が犠牲になりました。

国土地理院空中写真1977年

1995年



1977～1978年噴火後、泥流や土石流から洞爺湖温泉街を守るため、砂防施設がつけられました。温泉街の上流側で土砂を押しとどめるために砂防ダムが建設され、泥流や洪水を安全に流すために流路工が設けられました。

国土地理院空中写真1995年

2000年



2000年噴火では、洞爺湖温泉のすぐ近くに噴火口ができ、噴火口から熱泥流が流れ出ました。初期の泥流は、砂防ダムや流路工で防ぐことができましたが、その後、多量の泥流がふれ出たため、温泉街は被害を受けました。

国土地理院空中写真2000年

2000年(噴火後)



この被害を踏まえ、土砂災害から洞爺湖温泉街を守るため、大規模な遊砂地が建設されました。左の図の青色で示したアパートなどの建物は移転し、土砂をため込む施設となりました。

国土地理院空中写真2000年

1910年噴火



現在では農作物が育ちています。

1910年当時

1910年噴火時の噴火口周辺の状況

大森房吉撮影

1977～1978年噴火



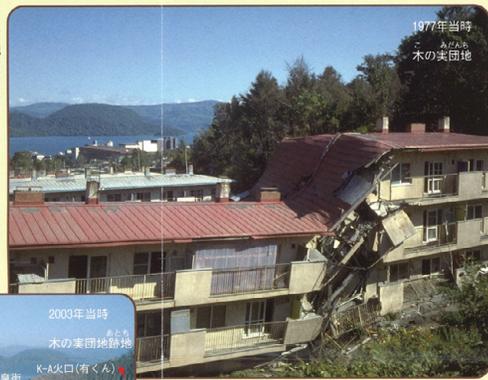
1977年当時

洞爺湖温泉街

噴火が始まってから約40分後の噴煙柱

出典「有珠山その変動と災害」(北海道大学図書行会)

右の写真は、1977～1978年噴火時の断層で破壊された木の実団地です。この地域では1910年噴火で地割れが発生し、2000年噴火では火口が次々にできました。



1977年当時

木の実団地

岡田弘撮影



2003年当時

中島

木の実団地跡地

K-A火口(有くん)

洞爺湖

洞爺湖温泉街

2000年噴火



Mt. Usu from HDB heli June 16, 2004 H. Okada

大有珠 Ousuzi

有珠新山 Utsu-Shinzan

小有珠 Kousuzi

北外輪山 Kita-Gairinsan

北屏風山 Kita-Bayonbansan

金比羅山 Konpira-san

K-A火口(有くん) KA crater

K-B火口(珠ちゃん) KB crater

洞爺湖温泉街

岡田弘撮影



2004年当時

岡田弘撮影

洞爺湖 有珠山フットパスマップ

四十三山ルート
金比羅山ルート

大地の雄大な運動を肌で感じ、火山噴火による破壊と自然再生が織りなす多様な景観を楽しもう!!



監修/岡田 弘、宇井 忠英
 編集/独立行政法人土木研究所 寒地土木研究所
 発行/洞爺湖有珠山ジオパーク推進協議会
 協力/国土交通省北海道開発局、北海道地方環境事務所、林野庁、北海道、洞爺湖町、壮瞥町、株式会社洞爺ガイドセンター
 環境防災総合政策研究機構
 アジア航測株式会社、株式会社ソーン技術コンサル

お問合せ先/洞爺湖有珠山ジオパーク推進協議会(事務局:洞爺湖町)
 電話番号 0142-76-2121
<http://www.toya-usu-geopark.org/>



【エリアマップ】



■R空蘭本線利用 (R洞爺湖駅下車、バスで15分)
 JR札幌駅より、特急利用で約1時間40分
 JR新千歳空港より、特急利用で約1時間30分
 ■道央自動車道(有料)
 道央自動車道・虻田洞爺湖インターチェンジより約15分
 ■一般道路利用(無料)
 札幌市より、国道230号で約2時間10分、バスで約2時間40分
 千歳市より、国道36号、国道37号で約3時間30分